

Book Review

歯科医師の歯科医師による歯科医師のための 睡眠時無呼吸症候群の口腔内装置治療

阪井丘芳 監修/奥野健太郎 編著
野原幹司・佐々生康宏・小谷泰子 著

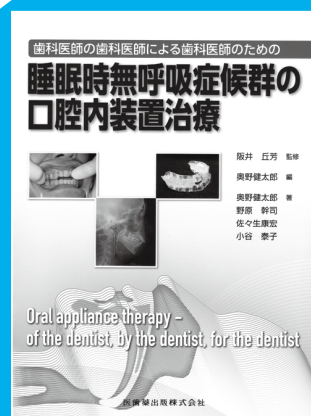
● ● ●

Reviewer

外木守雄 Morio Tonogi

(日本睡眠歯科学会理事長、日本大学歯学部口腔外科学講座)

A4 判変, 112 頁
オールカラー
定価 (本体 6,200 円 + 税)
医歯薬出版刊



睡眠には、働き続けて疲れた脳組織を修復し、機能を回復する機能がある。また、脳に大量に流入した情報から、必要なものと不要なものを整理し、必要なもののみを記憶する役割をもつ。さらに、睡眠中には成長ホルモンが分泌され、子どもの成育に非常に重要な働きをもっている。このように睡眠には、① 傷ついた組織の回復、② 脳や身体の休息、③ 記憶の整理、④ 精神/情動の安定化、⑤ より良い成育を確立するなどの重要な役割があることが解明されてきており、睡眠の重要性は広く認識されている。

昨年、厚生労働省では、国民の健康増進のため「健康づくりのための睡眠指針 2014」を公表し、睡眠の重要性を訴えた。このことから、今後、より良い睡眠に対する欲求は深まり、われわれ歯科医療従事者が睡眠医療に関わる必要性が増えていくことが予想される。そのなかで本書は、臨床実践編として、OSAS 患者が歯科医院に初診来院してから口腔内装置治療を実際に行うまでの流れを、Step 1 から Step 4 に分けて、それぞれ詳しく述べられ

ている。

Step 1 では、OSAS のスクリーニングの仕方を、実際に使用している問診（医療面接）用紙や、多くの図表、写真などを用いて視覚的にわかりやすく解説している。

Step 2 では、OSAS の確定診断に不可欠である終夜睡眠ポリグラフ検査（PSG 検査）について、実際の PSG 結果の読み方や、医科への PSG 検査の依頼方法などを、実例に基づいて詳しく解説している。

Step 3 では、口腔内装置（OA）による実際の治療について、① OA の適応症（OA が効きやすい症例と効きにくい症例の見きわめ方）、② 口腔内の診査（OA の副作用とそのリスク因子のチェック法について）、③ OA の技工操作方法（上下顎のスプリントの作製法）、④ OA の装着（下顎の前方移動距離の決定法および患者への使用法の指導について）、⑤ OA の調整方法（OA 使用後の副作用に対する調整法や効果がない場合の対処法）というように、実際の治療の流れに沿って、豊富な治療経験をもとに、それぞれ詳し

く紹介している。

Step 4 では、OA 治療の評価および管理方法について、実際のチェック項目を示し、解説している。

この Step 1~4 に沿って治療を進めることにより、安全で効果的な OA 治療を行うことができ、OA 治療の効果がなく、OA 治療の副作用ばかりが先行し治療が成功しない、といったリスクを減らすことができるだろう。

また、基礎知識編として、OSAS の原因や病態などに関する基礎知識、OSAS の検査診断法、OSAS に対するさまざまな治療法などが記載されており、これから OSAS 治療を開始しようと考えている歯科医師にとっては、OA 治療のガイドブックとしてだけでなく、OSAS に対する入門書として最適であると考えられる。

本書により、OA 治療を行う歯科医師の治療成績が向上して OA 治療の有用性が広く社会に認識されるようになり、国民の健康増進にわれわれ歯科医師が貢献でき、睡眠医療の一翼を担えるようになることを願い、本書を推薦する。